

## 2017年度入試直前動向①～人気の系統は？～

河合塾

2016/12/19

いよいよセンター試験まで残り1ヶ月となった。そこで、今号より来春（2017年度）入試の展望を3回に分けてお伝えする。今号では、河合塾が実施した全統マーク模試の結果を踏まえながら、学部系統の人気とその背景について取り上げる。

## ■「文高理低」は来春も継続

【図表1】は今秋実施した第3回全統マーク模試における学部系統別志望動向である。国公立・私立ともにグラフの最下部が「全体」の志望者前年比になっており、この数値に赤いラインを引いている。このラインより右が人気の学部系統、左が不人気の学部系統となるが、理系学部よりも文系学部の人気が高くなっていることがわかる。

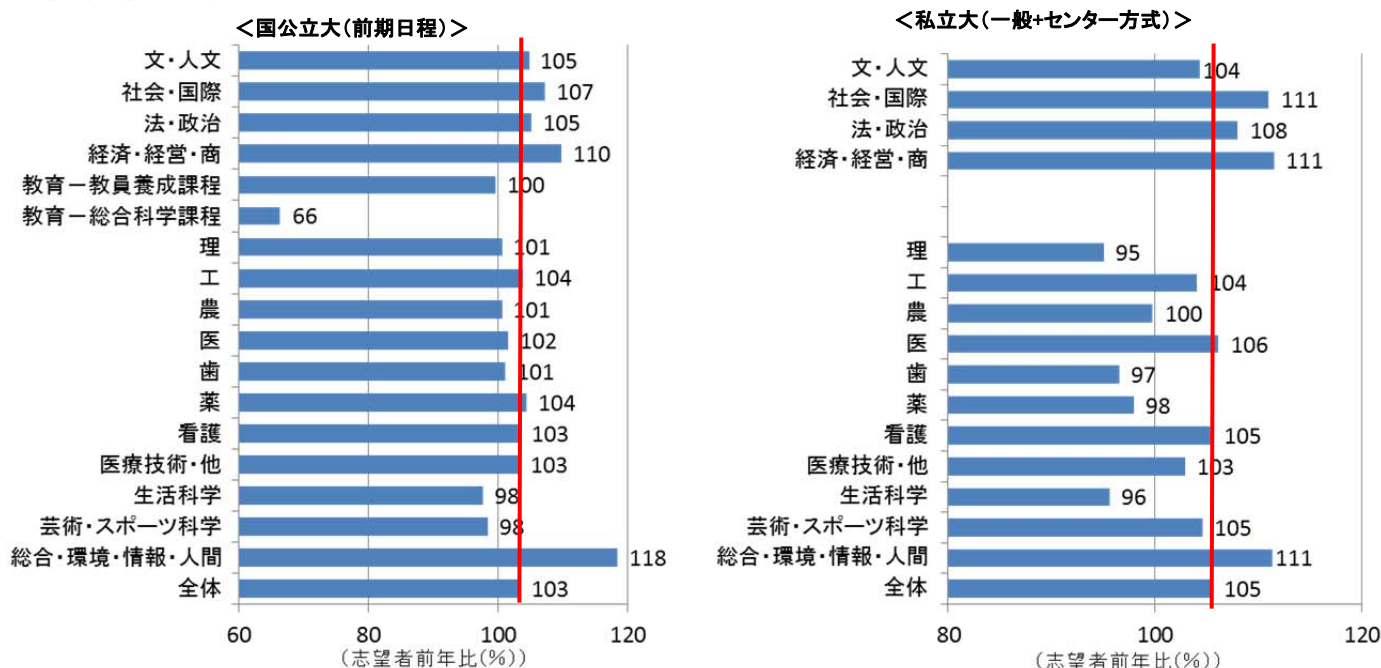
2014年度入試までの数年間は、卒後の進路がイメージしやすい資格が取得できる学部や理系学部に人気が集まっていた。しかし、大学生の就職状況が改善してきたこともあり、2015年度入試以降、理系学部よりも文系学部が人気となる「文高理低」となっている。2017年度入試も「文高理低」の流れは継続しそうである。

文系ではとくに社会科学系の各系統で志望者の増加が目立つ。なかでも「経済・経営・商」学系は、国公立・私立ともに志望者は前年から1割増加しており、人気となっている。なお、国公立大の「教育－総合科学課程」では前年比66%と志望者の減少幅が大きい。これは来春6つの国立大で教育学部の総合科学課程が廃止されるためである。総合科学課程についての解説は次号で取り上げる。

理系学部に目を向けると、かつての勢いは見られない。「工」学系では国公立・私立とも前年比104%と志望者は増加しているものの、「理」「農」学系では「全体」の増加率と比べると数値が低く、落ち着いた動向となっている。なかでも私立大の「理」学系は前年比95%と全系統中で最も減少率が高くなっている。

医療系では、国公立大はほとんどの分野が前年並みの志望者数となっている。「医」では今春まで2年連続で志願者が減少しているが、その反動は見られない。「薬」は医療系分野で最も志望者増加率が高いが、要因は女子志望者の増加である。私立大では「医」「看護」で志望者が増加しているが、学部・学科新設の影響が大きい。一方、「薬」は国公立大とは対照的に志望者が減少している。

【図表1】学部系統別の志望動向



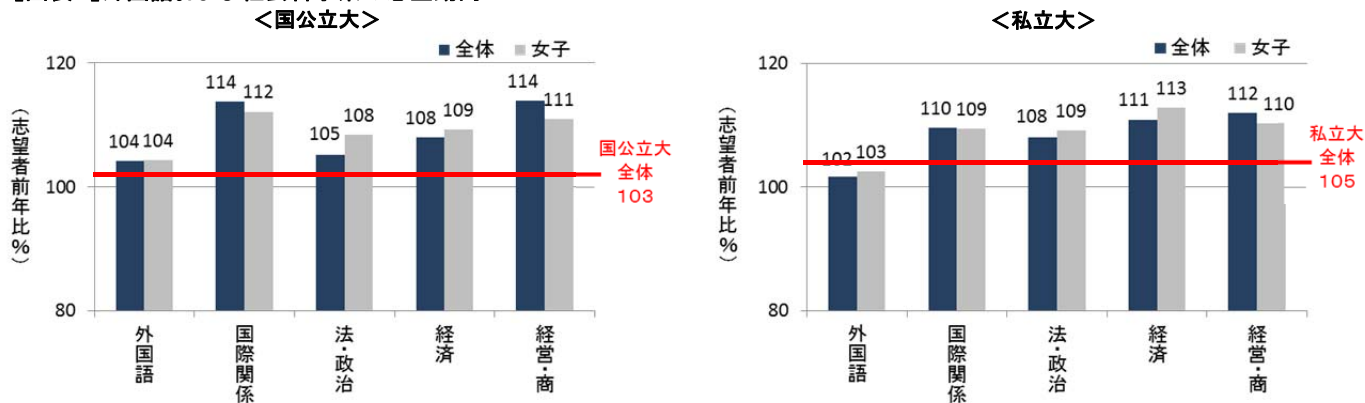
※第3回全統マーク模試より

## ■社会科学はいずれの分野も人気好調、国際系人気のしわ寄せは外国語系に

【図表2】は外国語系と社会科学系の各分野の志望動向である。前述したように、文高理低のなか人気となっているのが社会科学系の各分野である。「国際関係」「法・政治」「経済」「経営・商」のいずれの分野も、「全体」の前年比を示す赤いラインを上回っており、人気を示している。「法・政治」「経済」では女子志望者の増加率が全体を上回り、女子の増加が分野の人気を押し上げている。

人気近年、学部・学科の新設が目立つのが「国際関係」だが、このしわ寄せを受ける形となっているのが、外国語系である。とくに私立大では、志望者は減少こそしていないものの増加率は全体より低く、人気は低調である。

【図表2】外国語および社会科学系の志望動向



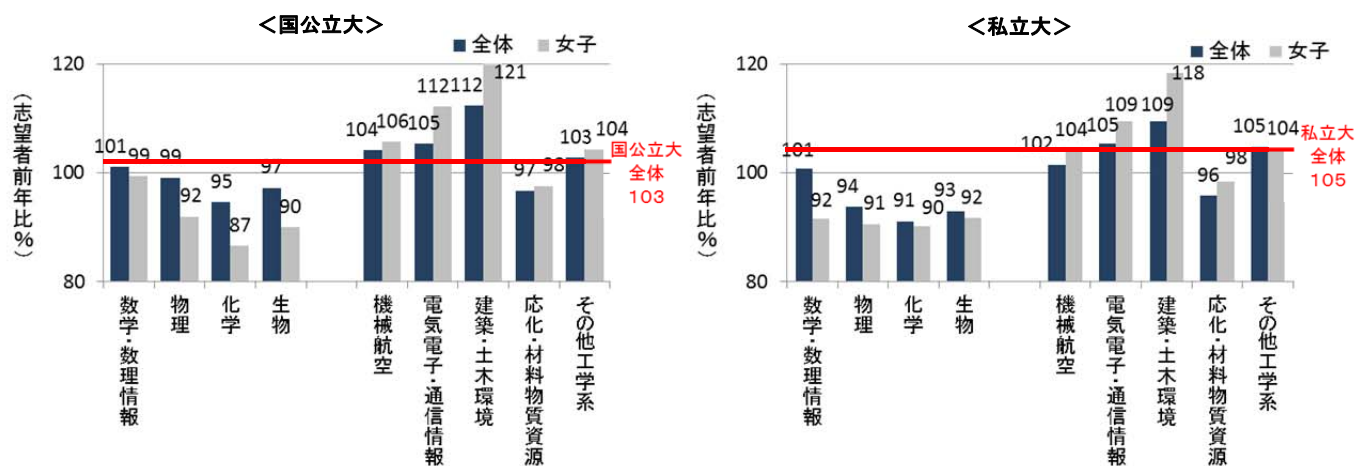
※第3回全統マーク模試より、国公立大は前期日程で、私立大は一般+センター方式で集計

## ■理工系学部一分野により人気に差も

前述のように、理学系は国公立・私立ともに低調な人気となっている。ただし分野ごとにみると、状況は異なる。【図表3】は理工系学部の各分野の志望動向である。「理」学系のうち「数学・数理情報」分野では志望者は前年並みとなっているが、「物理」「化学」「生物」では志望者は減少している。とくに「化学」で減少が目立ち、女子の減少率も高くなっている。

工学系では「建築・土木環境」の人気が突出している。国公立・私立ともに志望者は前年から1割程度増加している。とくに女子志望者の増加率が高く、女子だけでみれば前年から2割ほど増加している。

【図表3】理工系の志望動向



※第3回全統マーク模試より、国公立大は前期日程で、私立大は一般+センター方式で集計

以上、2017年度入試直前の学部系統の人気について見てきた。「文高理低」はこのまま本番入試でも続くと思われるが、センター試験の平均点の変動が志望動向に与える影響は小さくない。「法」と「経済・経営・商」、「医」・「歯」・「薬」のような隣接する学部系統、同系統内の難関大と地方大の動向など、現時点とは異なる傾向となる可能性が残る。センター試験後の最新動向は、入試情報サイト Kei-Net などで紹介していきたい。